

- ★ → 好エントリー
- → 利確
- ★ → × エントリー
- → 損切



①箇所：下落トレンドの途中でエントリーすると、トレンドが続く限り伸ばしたいが損切ラインをサポートラインや移動平均線に設定することになる。結局損切になって切った瞬間に下に行くことになる。こういう下落トレンドは、初動で思い切って損切幅を広くして最大限伸ばす方が良いと思う。Cの足が出来上がった段階で指数はすでに下落トレンド。大陽線ができていたが、だましの陽線と認定してトレンドライン上限に設定。A箇所でエントリーして、思い切ってD箇所に損切ラインを設定して、利確ラインをB箇所に設定。という形で大きく値幅が取れそうなときは、損切幅も大きくとってみて、徐々に損切箇所を切り下げて最大限値幅を取るみたいにした。A箇所でエントリーしてライン割ったら損切にしたら、少し割って損切している間に下に飛んでエントリーするチャンスを失う。チャンスを失うというのは、下落すればするほど損切幅の設定がどんどん大きくなることと、サポートラインを損切ラインに設定するとしたら、損切幅が狭すぎて下落する前に損切になるから。頭と尻尾はくれてやるにしても、最初の損切幅はやはり少し大きくなるが、そこを乗り越えないと値幅は取れなさそう。

②箇所：結構意識されているサポートラインが6101～6092の間に発生していた。その間でのエントリーは避けて6092～6080円付近もショート勢の損切が溜まって狩られるノイズが発生すると思った。ただサポートを利用するとそこを狩り取られてきたからわかる。よって頭をくれてやる戦法として、6080を超えて下落しさらに下落の勢が強くなったところでエントリーした。人間の心理を考えて。最大限はB箇所くらいまで下落はあり得るかなと想定はしていたが、信じ切れず6012のサポートに行く手前で利確したい自分にまけて利確してしまった。やはり自分の感情に負けている。ここでの損切ラインは、6092円に設定していてここまで利益を伸ばしたのにそこまで上げられると、利益が損になることを恐れてしまった。やはりA箇所のラインでエントリーして、損切ラインも切り下がっていくような形にして最悪利確ができるというようなマインドにもっていかないと利益伸ばせない。頭の方でエントリーできるようにしなければ。想定したラインを信じて長めに値幅とる練習が必要。想定したラインを信じるということはまだ上昇トレンドに行く可能性があるけど、それを根拠揃えて下落トレンドになると想定する経験も必要。今回であれば指数も弱く下落トレンドでCの足も上髭が切り下がっていく形で明らかに買い圧力が弱かったから、見やすい方ではあったと思うが...